

インターバンクの声（2015 年 9 月 18 日）

日本時間未明、午前 3 時過ぎに米連邦準備理事会（FRB）が開催した 2 日間の連邦公開市場委員会（FOMC）で話し合われた金融政策の発表があった。市場予想を二分していた決定は、世界経済をめぐる懸念や金融市場の変動、短期的なインフレ率の下振れリスクなどがその主な理由として挙げられた。為替市場では、総じて主要通貨がドルに対して強含む反応が見られたが、いつもの FOMC 前に比べてポジションの傾きが少なかったのか、ほぼ想定された範囲内での反応に留まったように感じた。特に豪ドルなどは、イエレン議長が記者との会見で中国やその他の新興国市場の成長に懸念があると言及したこともあって、ほぼ発表前の水準にまで戻してしまっている。市場は今回の決定と声明の内容に対し、前回よりもハト派的になってしまったとの受け止め方が多いようだが、一応年内の利上げ決定の可能性は残しているものの今まで以上に先行きが不透明になってしまったと混乱している向きもある。そうした見方が如実に反映されたのが NY ダウ平均株価の反応だったかもしれない。一時 200 ドル近く上昇していたが、終値では前日 65 ドル値下がりした。毎日ではないが、アジア時間のドル円も日経平均や上海株の変動に揺さぶられる日も多い。月が替わって直ぐの米雇用統計の発表や 10 月の FOMC に向かって再び神経質な相場が始まった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。